

伝える、つなぐ、広報いしおか

一冊の広報紙には、たくさんの人の手と想いが込められています。

毎月2回、市民の皆さまのもとに届けられる『広報いしおか』。

取材や編集、印刷、配布・・・その一冊には、多くの人の手と想いが込められています。今回の特集では、広報紙の“舞台裏”をのぞき、情報を伝える仕組みや支えてくださる皆さんの姿を紹介。

さらに、令和8年度からの紙面リニューアルの概要をお伝えします。広報は、市民の皆さまとともにまちをつくる大切な橋渡しです。



「編集・取材・校正の舞台裏」

広報紙ができるまでには、多く皆さんの協力と職員の想い、工夫があります。

取材先でのインタビュー、原稿の作成、写真の選定、校正作業・・・。

一冊の紙面に、情報が正確に、かつわかりやすく伝わるように、丁寧な工程を積み重ねています。

読者の皆さまにとって読みやすく、親しみやすい紙面を目指す職員の努力が詰まっています。



「広報紙を支える市民の手」

広報紙の配布や点字版・音声版作成など、市民の皆さんの協力も欠かせません。

点字通訳・音声読み上げのボランティアの方々が紙面をもとに、必要な方に情報を、そして各家庭にはシルバー人材センターの皆さんや配布協力者の皆さんが、広報紙を届けています。また、写真や情報を提供してくださる市民の皆さんの協力により、紙面はより豊かで親しみやすくなっています。広報いしおかは、市民の皆さんと行政の協働でつくられる一冊です。



シルバー人材センターの皆さんによる折込み作業



仕分け作業

点訳でつなぐ思いやりの輪 「点字を学ぶ会 つくし」

平成13年から石岡市の広報紙をはじめ、ゴミカレンダーや時刻表など、日々の暮らしに欠かせない情報を点訳し続けている「点字を学ぶ会 つくし」。メンバーは専門的な知識を学びながら、読みやすさや正確さを第一に、視覚障がいのある方の「知りたい」に応える活動を続けています。静かで丁寧な作業の積み重ねが、20年以上にわたり広報活動を支えています。



活動の様子



6点点字入力による編集

声の交流、地域のつながり 朗読ボランティア「ひびきの会」

広報紙や社協だよりを朗読し、CDに吹き込んで届ける活動を続けてきた「ひびきの会」。昭和57年から積み重ねてきた読み手としての技術と、聞く方を思い浮かべながら丁寧に声を届ける姿勢が、多くの市民の支えとなっています。CDの配布のほか、利用者との交流会も継続し、長年にわたる静かな取り組みが、今も地域に響き続けています。



静寂の中で行われる音読の様子



録音の様子

広報は、声を聴く入り口にも 伝えるだけでなく、聴き、つなぐ

◆ 市長と語ろう会で声を聴く

市民の皆さまから寄せられる意見や質問に、市長が直接答える対話の場。議題は地域課題やイベント、生活支援など多岐にわたります。寄せられた声は紙面や施策に反映され、広報が双方向のコミュニケーションツールとして機能しています。



▲詳細はこちら

市長と語ろう会の様子

◆ 市長へのたよりで意見を集める

市役所などに設置された「市長へのたより」、オンラインアンケートなどを通じて市民の声を収集。日常の意見や提案が、施策に活かされています。



▲詳細はこちら

市民の皆さまの声を日々受け取る「提言箱」

◆ 寄せられた声が施策に生きる

過去には、樹木伐採や道路整備などに市民の要望を反映。広報は単なる情報発信だけでなく、市民の皆さんと行政をつなぐ双方向のツールとして活用されています。

市民の皆さんの声を紹介

「市長と直接話せるのは
貴重な機会です！」

「広報を読んでイベントに
参加しました！」

「市長へのたよりで意見が
通ると実感できました！」



令和 8 年 4 月からの発行回数について

市民の皆さまの声がつくる、これからの『広報いしおか』

令和 8 年度からの紙面見直しの一環として、また広報いしおかの今後の紙面づくりに生かすため、今年度、広報紙本紙を活用した市民アンケートを実施しました。今回のアンケートでは、多くの市民の皆さまから、広報紙に対する評価や期待、改善点など、さまざまな声をいただきました。

◆ アンケートに寄せられた主な声

「広報紙は月 1 回の発行でよい」

広報紙は月 1 回でよいとの声が多く寄せられました。(80.7%)

「生活に役立つ情報をもっと知りたい」

よく読まれている記事として「特集」「情報ネットワーク」「まちの話題」などが上位を占め、日々の暮らしに寄り添った案内や制度説明へのニーズなども多く寄せられました。

「防災情報を充実させてほしい」

身近な備えや避難に関する情報の発信を求める声がありました。

「子育て関連の情報をもっとまとめてほしい」

妊娠・出産、乳幼児向け施策、相談窓口など、世代別で探しやすい紙面を望む意見がありました。

「紙と WEB の役割を整理してほしい」

広報紙は“じっくり読む情報”、WEB や SNS は“速報性の高い情報”という役割分担を求める声がか寄せられています。

「読みやすさ・情報量は概ね満足」

文章量や写真、レイアウトの工夫に対する評価もいただきました。



▲詳細はこちら

◆ アンケート結果を受けて

皆さまからいただいたご意見を踏まえ、より深く、より伝わる紙面づくりへと進むための一歩として、広報紙発行回数を見直すとともに、次のような改善を進めます。



- ▼生活情報・防災情報の充実
- ▼様々な世代の方が探しやすい紙面構成
- ▼特集ページの強化
- ▼WEB・SNS との連携による情報発信の多層化
- ▼アンケートや市民参加、声の収集の仕組みの強化

◆ 最後に

令和 8 年度から広報紙発行回数を月 2 回から月 1 回に見直します。これは「減らす」ではなく、より深く、伝わる広報を目指すための取り組みであり、紙面・WEB・SNS を組み合わせ、皆さまの声を反映し続けます。

伝えることは、聴くこと。

広報いしおかは、市民の皆さまの声を受け止め、まちの未来へつなぐ広報であり続けます。